

「学び合い・振り返り活動」で “動きづくり!” “体力づくり!” “やさしい心づくり!”

福岡県春日市立
天神山小学校
全校児童数403名
(男子187名 女子216名)

実践内容

実施目的

本校の重点学習活動『学び合い・振り返り活動』（課題把握 → 表現・学び合い → 行動化）を教育活動全体に位置付けた健康づくり教育の推進を通して、活動の見通しをもち、仲間とともに運動・スポーツに親しんでいく資質や能力（生涯体育の基礎）を培う。

- ① 各種の運動の基礎となる「多様な動き」や「巧みな動き」の確かな定着。
- ② 運動・スポーツに親しむための「基礎体力」の向上。
- ③ 楽しく明るい生活を営むための「人間関係」の深化。

実施内容

1 『学び合い・振り返り活動』を“旺盛にする” 体育科学習指導の充実 (図①)

(1) 見通しを持ち自ら動きを高め続ける授業づくり (運動を構成する動きの分析)

運動の系統性（低学年→中学年→高学年→中学校）及び内容からねらう動きや技能を明確にし、構造的特性や運動局面（準備→主要→終末）から分析しています。

〈意欲を喚起する教材の開発〉

勝敗や達成が「未確定」であり、すべての子どもに「活躍の機会」があり、「自己目標の設定が可能」で「技能の伸びが実感」できるという条件を満たすとともに、新体力テストの結果を踏まえた教材を工夫しています。

〈動きの高まりのある単元の構成〉

単純な動きから複雑な動きへのスモールステップを踏まえた動きの配列を行っています。

〈動きの高まりと学び方のよさの自覚を図る学び合い・振り返り活動〉

子ども自身が評価可能な内容から「自己評価・他者評価」する内容を焦点化しています。

(2) 仲間とともに動きを高め続ける課題解決学習

上記の『学び合い・振り返り活動』に、「トライタイム」

「チャレンジ・パワフルタイム」「キラリタイム」の3つの場を位置付け、一連の活動過程を機能させています。

(3) 動きの課題を解決する活動への支援

〈練習方法の提示〉〈動きや学び方のモデル提示〉

〈動きの記録ノート〉〈柔軟な練習の場の設定〉

2 『学び合い・振り返り活動』を“積み上げる” 始業前の体育の充実

毎朝の健康タイムや昼休みの児童の委員会活動でも、見通しをもった活動や異学年ペアでの活動を工夫し、体育的行事やコミュニティ・スクール行事との関連を図り(図②)、意欲を継続させながら基礎体力づくりや人間関係づくりを計画的・組織的に推進しています。

(1) 健康タイム(月～木曜日8:35からの10分間)

わんぱくウォーク(写真①)を保護者や地域の方と共に継続的に実施。3月の大会への見通しをもって行っています。雨天時は、天神山体操(写真②)を行います。

(2) 児童会タイム

学期に一回、昼休みに「鉄棒交流会」(写真③)「マット交流会」(写真④)を児童の体育委員会が主催し、地域の学生ボランティアの協力を得ながらペア学年(1・6年、2・5年、3・4年)で実施しています。

実施上で工夫したこと

体育科学習指導の中でも、日常指導の中でも『学び合い・振り返り活動』が展開できるように工夫しました。

また、体育科学習指導や日常指導の推進では、以下のような校務分掌組織を活用し、その充実に努めました。

〈体育科学習指導〉

学年部の主題研究推進委員会を中心に「学び合い・振り返り活動」を位置付けた公開授業を全学級で実施。

〈日常指導〉

学年部の代表者から構成する「たくましい体」育成部で毎月整理する指導内容を全学級で共通指導。

主な成果

- ① 『学び合い・振り返り活動』を位置付けた体育科学習指導の積み上げを通して、仲間とともに自他の動きを高め合うことができるようになり、確かな動きの定着を図ることができてきました。
- ② 体育科学習指導の充実及び始業前の体育の継続を通して、運動能力総合評価は全校でA~C判定の子どもが過去3年間続けて80%を超え、本年度もほとんどの項目において全国平均を上回りました。

●体力合計点の3年間の変化 (点)

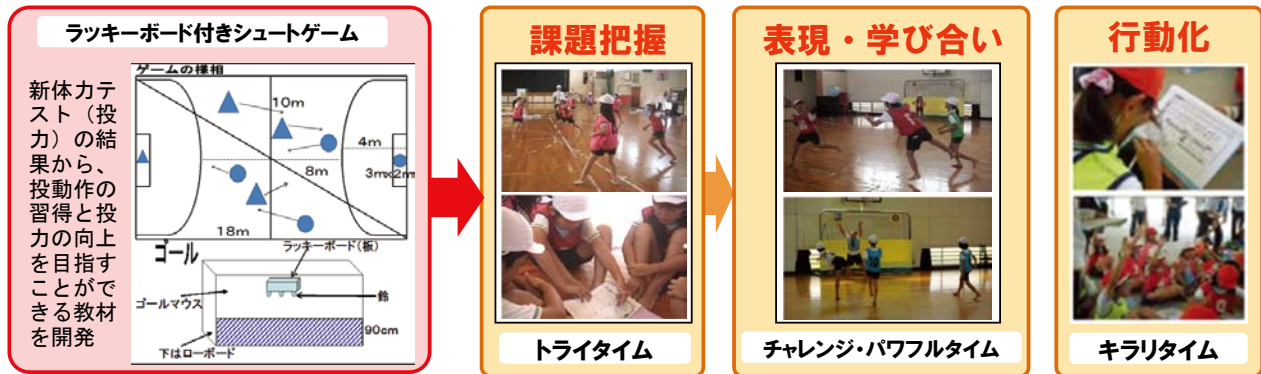
第5学年	H21	H22	H23
男子	55.1 (54.2)	57.0 (54.4)	59.4 (-)
女子	58.4 (54.6)	58.5 (54.9)	57.7 (-)

※ () 内は全国体力調査の全国平均

●総合評価 (A~C) の割合の3年間の変化 (%)

第5学年	H21	H22	H23
男子	69.1	84.4	93.9
女子	85.4	86.1	84.2

第4学年単元「シュートゲーム」における教材と活動・支援（図①）



はじめのゲームの様相を視覚的にフィードバックさせるビデオ提示

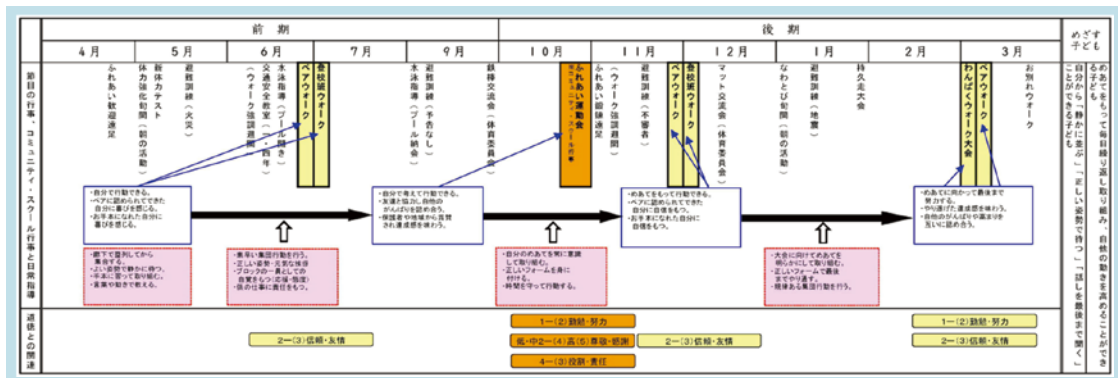
課題に応じて選択できる練習方法の提示

タスクゲーム	
<p>①シュートで終わった</p> <p>(1) 1分間シュートゲーム</p> <p>1分間に何回ゴールを奪えるかを競うタスクゲーム</p> <p>球の奪り合いは変更可能</p> <p>2対1の数的優位から</p> <p>ゴールのチャンスは</p> <p>1対1シュートする動き</p>	<p>②シュートまでいかない</p> <p>(1) 10秒のパスシュートゲーム</p> <p>10秒間でシュートし、ゴールを奪えるかを競うタスクゲーム</p> <p>チーム全員がボールタッチしないといけない</p> <p>時間の変更は可能</p> <p>難易度のアップダウンを調整</p> <p>パスの奪い合いは可能</p>
<p>(2) ラッキーボードシュートゲーム</p> <p>ロケットのマークをかわしてパスをもらい、ラッキーボードにシュートするタスクゲーム</p> <p>球の人数、行動範囲は変更可能</p> <p>相手もかわしてゴール</p> <p>ゴールの近くまでシュートする動き</p>	<p>(2) 時間制限シュートゲーム</p> <p>ボールを持ってから2秒の間にシュートし、もしくはシュートをしななければならないタスクゲーム</p> <p>チーム全員がボールタッチしないといけない</p> <p>時間、球の数の変更は可能</p> <p>ゴールの近くまで移動</p> <p>難易度のアップダウンを調整</p>

練習を生かして課題の解決を図っているチームをよい学び方のモデルとして提示

「トライタイム」「チャレンジ・パワフルタイム」「キラリタイム」の一連の場を通して「学び合い・振り返り活動」を展開

体育的行事やコミュニティ・スクール行事との関連を図った日常指導（図②）



「振り返る」「つなぐ」「積み上げる」をキーワードに日常指導での指導のポイントを具体化

健康タイム

●ウォークや天神山体操等での基礎体力づくり

児童会タイム

●体育科年間指導計画と関連付けた委員会活動

わんぱくウォーク(写真①)

天神山体操(写真②)

鉄棒交流会(写真③)

マット交流会(写真④)

第3章 体力向上への活用のポイントと取組事例

I 体育・保健体育の授業を改善するために